家庭教育支援事業

自治体名

岩手県金ケ崎町

学校数

幼稚園4園　保育園3園　小学校　5校　中学校1校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当町は、岩手県の内陸に位置しており、津波浸水等の大きな被害はない。
ただし、県南に位置するため、放射能の影響を心配する声もある。（仮設住宅数　0）

＜取組名＞　～家庭教育学級～

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
			18	小学校・幼稚園・保育園・子育て支援ｾﾝﾀｰ

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○	○			（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

【家庭教育学級　実技・講義「乳幼児の運動遊びの大切さを学ぶ　～親子ふれあい運動遊び～」】

- 子どもの発達段階に応じた「運動遊び」を行った。
- 「遊び」と「運動」、「子どもの成長」について、実技と講義を行った。
- 身近なものを使った簡単な運動遊びや、乳児の発育を月齢に合わせてチェックし、それに合わせた運動遊び等を学んだ。

【家庭教育学級　講演「発達の土台をかためて入学の日を迎えましょう」】

- 就学に向けて、「早寝・早起き・朝ごはん」を基本に生活リズムの向上について講演を行った。
- 就学前の成長段階で、「よくねる」、「よくあそぶ」、「よくたべる」、「めんこがる」の4つの項目について、重点的に学んだ。

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

- 当町では、震災による大きな被害はなかったが、被災地への支援や被災者との交流等により、県全体の復旧復興を目指している。
- 県南部のため、放射能の影響や H20 岩手・宮城内陸地震の経験等、今後さらに防災教育の重要性が増している。防災という視点からも、地域コミュニティの再生に継続的に取り組む必要がある。
- 地域コミュニティの核となる家庭の教育力が低下している。

◇住民等からの要望・必要な取組

- 地域コミュニティを再生するうえでも、家庭の教育力を高める具体的な支援が必要である。
- 乳幼児のいる家庭からは、「冬場の寒い時期、家で過ごす子どもとの関わり方を学びたい。」や「スムーズに小学校生活をスタートさせるための就学準備の心得を学びたい。」等の要望があった。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- 町教育委員会：実施主体
- 小学校、幼稚園、保育園：保護者への周知、活動場所の提供
- 子育て支援センター、生涯教育センター：地域住民への周知、活動場所の提供
- 町子育て支援チーム（保育士、民生委員、自治会役員、子育て支援センター職員等で構成）：活動支援、運営協力等

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- 住民等からの声を聞き、ニーズの把握に努めている。
- 講義や講演を聞くだけでなく、実技や交流の場も設定し、事業の充実を図っている。
- 事業実施時には、「評価の観点」を明記し、改善に努めている。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- 町内全小学校、全幼稚園等で実施し、町内の多くの保護者に学びの場を提供することができた。
- 子育て支援関係団体、行政、学校、地域等との連携により、家庭教育の充実を図ることができた。
- 親同士で交流する場を設定したことにより、お互いの悩みを話したり、アドバイスを受けたりし、参加者全体で話題を共有し、安心感を得ることができた。

◇課題や今後の展望

- 参加する保護者と参加しない保護者の固定化が見られる。
- 家庭教育学級を実施する場合、子どもの年代を絞ることで、それぞれの発達段階に応じた支援がより有効になると思われる。